

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成果報告書

平成25年8月12日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 地球環境学舎

職名・学年 博士課程2年

氏名 ニティン スリバスタバ

助成の種類	平成25年度 ・ 若手研究者在外研究支援 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	第9回 インフラストラクチャー リニューアル アンド リコンストラクション 国際会議(i3r2)		
発表題目	Disaster resilience across urban and rural communities: A case of salinity ingress areas of Gularat, India (都市部と地方(周辺)社会(コミュニティー・共同体)を横断する災害復興:グ ジャラート州の塩害を受けた地域のケース)		
開催場所	オーストラリア・クイーンズランド州・ブリスベン・クイーンズランド工科大学		
渡航期間	平成25年 7月 7日 ~ 平成25年 7月13日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要/報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して 下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )		
会計報告	交付を受けた助成金額	200,000円	
	使用した助成金額	200,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	航空券	105,000円
		宿泊費	42,500円
		学会参加登録料	27,000円
		オーストラリアビザ取得費用	12,000円
オーストラリア国内移動費(交通費)		8,000円	
京都市⇄関空 ヤサカシャトルバス	6,000円		
当財団の助成についで	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 私に学会参加を通して世界中の研究者との交流の貴重な機会を与えて下さった京大財団に感謝の意を表したい と思います。本当にありがとうございます		

まず、はじめに、私に学会参加を通して世界中の研究者との交流の貴重な機会を与えて下さった京大財団に感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございます。学会の詳細は、下記の通りです。

学会：

インフラストラクチャー リニューアル アンド リコンストラクション 2013 年国際学会 (i3r2)のテーマは「リスク情報に基づく防災管理:対応と復旧復興に関する計画」でした。

論文と発表：

論文のタイトル（表題）は、「都市部と地方（周辺）社会（コミュニティー・共同体）を横断する災害復興：グジャラート州の塩害を受けた地域のケース」Nitin Srivastava (myself) and Rajib Shaw (my supervisor)共著 この学会で発表された論文では 50 年以上にわたって沿岸部の塩害に苦しめられている（の被害を被っている）Jamnagar district in the state of Gujarat in India のケースを取り上げた。私の論文の焦点である塩害の問題と生活への影響は、オーストラリア、インド、バングラデシュで浮き彫りにされてきているにも関わらず、いまだ国際的な壇上で取り上げられることはなかった。慢性的な災害は、都市部、周辺部双方に住む多くの住民に影響を与え（不利益をもたらし）、彼らの日常生活にも多大な（悪）影響を及ぼした。塩害によるダメージを最小限にするべく、都市部と周辺地域は相互扶助共生（関係）システムを維持している。本論文ではこの関係に焦点を当てることにより、災害の始まりの遅延と現地の生活の構成要素（職業）の関係を関連を確認（証明）しようと試みた。また、都市部および周辺部双方の共同体（コミュニティー）で、そして個人的に取り入れられている対処法の形態に関する調査結果を示すものである。この論文は、経済的に弱い（脆い、被害を被り易い）職業の確認（識別）を含めて、職業上の復興の方針（計画）の発展（進展）を強調するものである。この論文は最終的には、増大する脆弱さの結果としての都市部と周辺部の連携の重要性を明白にするものである:それゆえ、最近の「孤立した（分離した）」アプローチから地域全体を含む（地域包括的な）伝統的な「統合された（一体的な）」発展アプローチへの移行を余儀なくされた。次の表はこの学会で発表された脆弱な（経済的に弱いとされる）職業の概念をまとめたものである。

表1 塩害の考察と影響

塩害問題の考察	影響	
地域、地方レベルでの問題の優先化	地方産業	製陶業、織り物業、製革業の生産性の低下。
人々や社会組織の地方戦略	農業	農業から他の職業への転職、農業形態の多様性の減少(ナッツ栽培からコットン栽培への転換)、農業従事者の減少、園芸や農業の強化の強化必要性の増加
人々の生活や資源への塩害の影響	漁業	漁業組合が抱える飲料水不足状態
政府の様々な政策や戦略への影響	畜産業	生活に必要な素材や草原の不足の解消

脆弱な産業

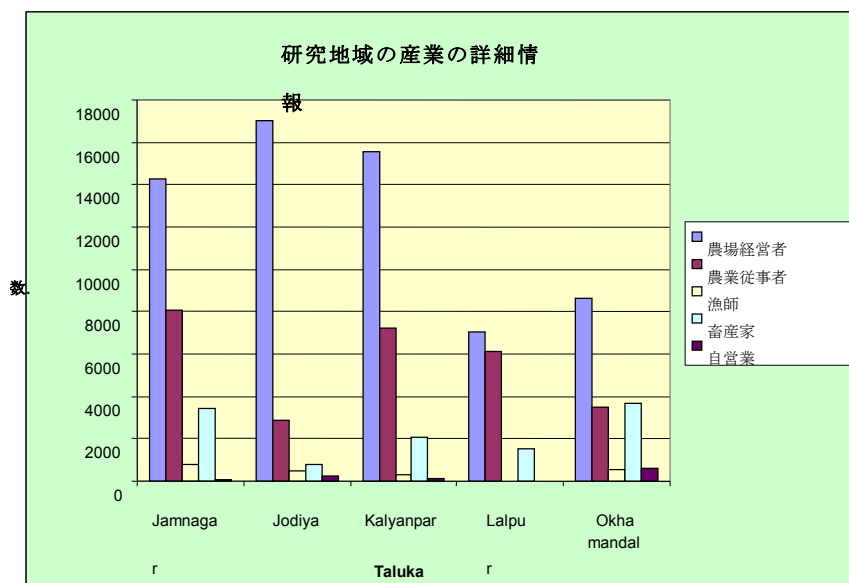


図1 ジャムナガー地方の各郡内の産業構成

A：私の発表の特色と時間

発表は割り当てられた15分ピッタリでした。発表の間、全体的に表現も話し方も満足いくものでした。

B：質疑応答と私の研究論題に対する聴衆の全体的な関心

討論の割り当て時間は5分で、3つの質疑と論表がありました。

最初の論表はオーストラリアの赤十字の代表者からのものでした。彼女はインドにおける塩害の調査に驚きを隠せませんでした。そして、私の研究に対して政府は何をしているのかと尋ねました。座長も、基本的に農業国であるインドで塩害が災害の一つだと認められていないという事実に懸念を示しました。農業分野での損失はインドの経済成長に甚大なるダメージを引き起こします。3番目の発言は職業的復興に関するものでした。塩害問題と増大する脆弱さの結果として生まれた都市部と周辺部の連携の重要性への関心を聴衆に惹起したという点において、発表は成功裏に終わりました。

C：その他のセッション／学会において私が拝聴した発表

学会には技術分野、技術以外の分野のバックグラウンドを持つ発表者がたくさんいましたので、双方の防災分野における知識を広める絶好のチャンスとなりました。インドのグジャラート州における頻発する現地が抱える問題に対しての国際的理解を高めることができました。国際的なフォーラムにおいて地域社会が抱える社会経済問題を認識することにより、研究者が多様な問題を理解し、地域的また地球規模の問題解決に従事することが容易になると考えられます。さらに、様々な地域（オーストラリア、スリランカ、インド、カナダ、中国、ベトナム、インドネシア）からの多様な専門的バックグラウンドと視点を持つ学会参加者（技術者、地域政府関係者、都市計画家、地理学者、NGO職員、寄贈者など）との議論において得られた多くの助言は、私の研究の違った様相を浮き彫りにし、よりよいものにしてくれます。その上、世界中から集まった災害・防災専門家との交流は、防災専門家としての私のキャリアをスタートさせる絶好の機会であると考えます。

この学会における経験は、個人的にも専門家としても実りの多いものでした。この発表が私自身の調査研究と今後の学会における活動をさらに推進するものとなることを心より願っております。